

# 第七回 荒川区区政改革懇談会

## グループ討議会議録：紫苑

### 【日時】

12月12日(月) 19:00~21:00

### 【場所】

荒川区役所 議員待遇者室

### 【次第】

ステップ1：はじめに

- ・ 前回の話し合いの内容確認
- ・ 今後のスケジュールについて

ステップ3：今日の話し合いの結果の確認

ステップ2：グループディスカッション

ステップ4：その他

### ステップ1：はじめに

- ・ コンサルタントより、前回の話し合いの内容確認、議事録の確認がなされた。また、今回の議論のテーマ及び次回以降の討論内容について確認がなされた。

### ステップ2：グループディスカッション

#### 【最終提言書の構成について】

事前に配布した資料の中にある最終提言書の構成イメージに関して委員から意見が出された。

- ・ 防犯、防災など、早急に対応しなければならない問題への対策も積極的に提言に盛り込んでいく必要はないか。
- ・ 基本構想へ反映させるための懇談会であるが、基本構想が20年程度を想定しているので、提言書に、あまり直近の問題を具体的に盛り込むとおかしくなる。
- ・ これまでの懇談会での討論、意見をはっきり反映させた提言書をつくるようにしたい。
- ・ 荒川区の将来像を、単に抽象的で理想的なものにせず、内容の具体性を高め、より実現可能な提言を目指すべきである。

#### 【これまでの話し合いの補足議論】

これまで行ってきた討論の内容を総合的に踏まえ、議論の補足を行うべく意見を出し合った。

#### (問題認識)

- ・ 近年の環境変化などを踏まえると、荒川区にとって最も大きな課題は、財政面の問題(国・地方を含めた財政的な危機状況をいかに脱出するか)ではないか。



- ・ 歳入を増やすためには、産業を活性化させることが重要である。歳出を減らすためには、民生費の影響が大きいので、高齢者が元気になって医療費等を削減することが有効である。
- ・ 7～8年後には、区内に交通網がさらに整備され、企業が増え事業所の生産額が増加し、ブランド品がさらに出揃うことで、商店街が活性化され、売上高が増加し、人口が増えている。一方で罹患率が下がり、元気な高齢者がまちの中で生き生きと活躍しているといったようなシーンが実現できると良い。

### （産業について）

- ・ 産業活性化のためにはまずどのようにして荒川区へ人を呼び込むかが重要となる。そのために荒川区独自の観光政策を積極的に打ち出していったらどうか。
- ・ 観光コース、回遊路を設置し、訪れた人たちに街中を散策してもらえようにする。
- ・ 荒川区の魅力を盛り込んだ案内やマップを作るなどして、周りにうまく宣伝していかなければならない。
- ・ 観光資源を遺跡などの土地固有のものや歴史に限定せず、季節ごとにイベントなどを企画して、アピールできる点を増やしていくべきである。
- ・ 荒川ブランドの商品を、ただのおみやげ感覚の商品ではなく、土地柄によく合った魅力的な商品になるように開発を行っていく必要がある。
- ・ バイオやロボット産業などが話題にあがっているが、いかにして実際に導入していくか、またそういった新たな産業を導入することで、既存の企業にも活性化をもたらす効果があるかどうかも考えなくてはならない。

### （財政について）

- ・ 区の歳入を増やすためには、いかにして自主財源を確保するかが重要となる。そのためには企業誘致を行って、雇用を増やせるようにし、産業の活性化を図る必要がある。
- ・ 歳出抑制については、具体的に「医療費の削減を行う」など焦点をしばって考えていかなければならない。
- ・ 医療費削減のためには、まず根本的に、健やかに暮らせる環境を整えていくべきである。またそのためには、高齢者の雇用機会を増やし、「働く元気なお年寄りがたくさんいる街」になるようにしたい。
- ・ 区外から来た住民が増えても、住民登録を行わず、結果として住民税を支払わないため、税収が上がらないという問題もある。

### （教育について）

- ・ 荒川区の英語教育が特に強調されているが、実を伴わずにただアピールするためのものになってはならない。今後、きちんと教育効果が現れ、英語が話せる人たちがでてくるよう、持続性のある教育にしていかなければならない。
- ・ ただ学力向上を目的とするだけでなく、道徳や倫理観に関してももっと教育し、人間性を育てる教育を行っていく。
- ・ 荒川区内のあちこちに点在する板碑、庚申塚、馬頭観音など、土地固有の文化、歴史を子供たちに教えることで、郷土への愛着も生まれるのではないかと。
- ・ 夜中なのにライトも点けないで自転車を走らせる大人がたくさんいる。教育される側だけでなく、

教育する側もしっかりとした意識が必要である。

- ・ 教育の質を求めて近隣区の学校まで通っている区内の子供たちがいる。荒川区自身の教育の質を高めていくことで区民を外に逃がさず、さらには区外から人を呼び込めるようにしたい。
- ・ 教育委員会は教師の質をきちんとチェックし、高めていってほしい。
- ・ 荒川区は児童館に入場できるのが小学3年生までだという。他の区では6年生までのところもあり、そういった環境条件の差が子供を他区に放出してしまっている理由のひとつになっているのではないか。

#### **（高齢化・福祉について）**

- ・ これまでは単に「高齢者」という一つの枠組みで話し合われてきたが、これを「前期高齢者」、「後期高齢者」、「要介護期」というように分類し、より具体的に解決案を見出していくべきではないか。
- ・ 紫苑グループの3本柱である「産業の再生」、「教育の質の向上」、「安心安全な街づくり」のそれぞれにおける高齢者の役割を明確にしていく必要がある。
- ・ 協力し合って問題解決に望むため、シルバー人材センターなどを活用し、高齢者の連携を深めていけるようにすると良いのではないか。
- ・ 高齢者がいきいきと活動できる場として町会があげられる。区が町会の組織を認知し、行政の業務をアウトソーシングしていくと、お互い活気のあるまちができる。

#### **（交通）**

- ・ 荒川区には高速道路がなく、区に入ってくるドライバーたちにとっての利便性に欠けている。
- ・ 地権者の反対は強いが、中央環状線と首都高速上野線をつなぐ計画を推し進め、交通の便を良くすることは産業の活性化にとって欠かせないことだといえる。
- ・ 明治通から放射状にのびる尾久橋通りと尾竹橋通りは区を南北に通過する車が多く、渋滞の原因となっている。これが狭い裏路地へと車を走らせることになってしまい、自転車との接触事故が多くなっているという。

#### **ステップ3：今日の話し合いの結果の確認**

- ・ これまで話し合った討論内容と、今回話し合った補足的な内容を十分考慮して最終提言書をまとめよう確認した。

#### **ステップ4：その他**

次回の懇談会までに提言書案を事前に委員へ送付し、当日は意見のまとめを行ない、最終案のとりまとめへとつなげることとした。

#### **次回について**

日程は1月25日(水)19:00より。

以上